

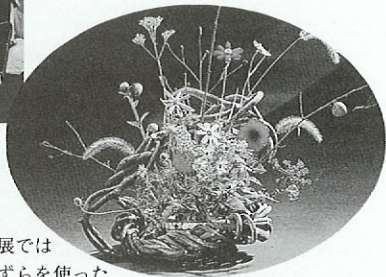
東京事務所の巻

銀座熊本館。ここは東京トレンド、そして全国から見た熊本が手に取るように分かります。日本最大の消費地首都圏へ向けて、熊本の物と情報をイベントを通し売り込む毎日。そんなイベントの中には熊本の文化を強くアピールしたのもたくさんあります。その一端をご紹介します。

(東京事務所 広報担当 松尾俊司)



‘89.9月3日~8日
熊本・球磨盆地小宇宙フェアでは、人吉・球磨地方に伝わる民話を中心に、クラシックポップスなどを披露。アンコールの連続でした。



‘89.11月6日~9日
用稲トミかずら工芸展では全国でも珍しい“かずらを使ったオブジェ”を発表。その素朴さが、ゆとりの生活にマッチしたインテリアとして注目を集めました。

‘89.11月10日~15日
高津明美染色展では、熊本を染める”と題し、阿蘇を中心としたモチーフで展覧会を開催。一方、作品が日展に入賞。火の国くまもとの染色技術の確かさに、多くの方から絶賛の声が寄せられました。



‘90.1月12日~16日
“深川芳子着物のアッパー展”は、肥後絣などをワンピース、ツーピースにアレンジしたファッションフェア。素材が着物地ということもあり好評でした。

●営業時間
夏期(4/20~9/30) 9:30~19:00
冬期(10/1~4/19) 9:30~18:00
年末・年始(12/27~1/4) 以外は開館

●お問い合わせ
熊本県東京事務所広報経済課 (03)572-5022
熊本県総務部広報課 (096)383-1111 〒862 熊本市水前寺6-18-1

WATCHING

ウォッチング

大阪事務所の巻

甲子園球場の35倍の広さをもつ会場のメイン施設“政府苑”には、小国杉を使った“都市・環境館”があります。その他にスポットガーデン、熊本県の日(7月13日)、物産展も開かれます。



建設省から協会に出向して1年、花博開催の指令塔の役割をしておられます。「1970年の万博を上まわる多くの国々からの出展もあり、地球サイエズの博覧会になりました。熊本の皆様もぜひご来場下さい」

●上村裕二さん(財団国際花と緑の博覧会協会総合運営推進本部調査役・熊本市出身)

大阪事務所は、関西での「熊本情報の窓口」として企業誘致、観光、物産、農林水産物の流通などの分野で活動しています。

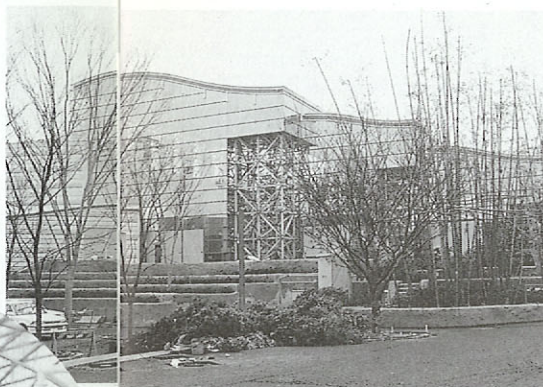


GENKIZUKAN

元気図鑑

関西新空港、関西文化学術研究都市建設…数々の大型プロジェクトで関西は大きく変わろうとしています。また、地球規模の環境問題が話題になる中、いよいよ4月から9月まで、大阪鶴見緑地で、花の万博が開かれます。今回は、その立役者の1人をご紹介します。

(大阪事務所 広報担当 高口義幸)



熊飽事務所の巻

熊飽地区には、たくさんの地域づくり団体があり、各地域で潤いのある豊かなまちづくりを目指して地道な活動が続けられています。今回は、その中で若手で精力的に活動されている3名の方をご紹介します。

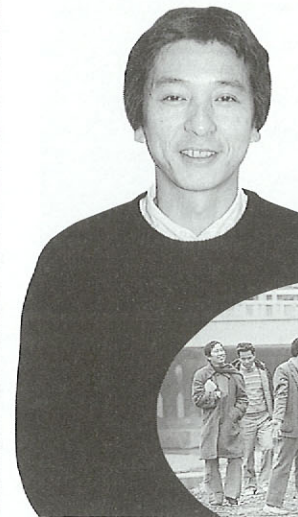
(熊飽事務所 広報担当 前野 弘)

しじゅう —40元気な私たち—

「住みたい町、誇れる町、栄える町」をスローガンとして、住民自らの手でまちづくりを進めています。川尻精霊流し、加勢川ペロン競漕大会、無田川の鯉流し、クリーン大作戦等、その活動内容が評価され、昨年3月には団体として第1回日本一づくり運動貢献者賞を受賞しました。

今年、熊本市合併50周年を迎えるため、住民の手で川尻の未来を描く「一万人の夢と情熱で描く一枚の絵」が企画されています。

●村田幸博さん
(40才/熊本市川尻町・南部地区市民の会広報担当)



新町は、昔ながらの駄菓子屋があり、路地に入ると三味線の音が聞こえてくる、そんななつかしい城下町の風情を残しています。しかし、最近ではマンションが乱立し、まちなみは乱れ、下町の人間関係は壊れてきています。文化の香りゆたかな歴史と伝統のまちなみを残し、新田住民のコミュニケーションを図るために地蔵祭り、みんなであちづくりをと勉強会などを開催しています。

●山口則男さん
(40歳/熊本市新町・一新まちづくりを考える会)



有明海を望む風光明媚な河内の里でとれるミカン、全国的に有名です。

この会は、若手後継者が中心になって栽培技術の研究、経営の合理化を進めて、地域内の技術平準化を図っています。

牛肉・オレンジの輸入自由化など農業も厳しい時代を迎えます。そんななかで、昨年5月には「柑橘専門大学」を開校し、ミカン農家の若手リーダーたちは最先端技術から末端の消費動向を学んでいます。

●横田成人さん(40才/飽託郡河内町・果樹研究同志会)

